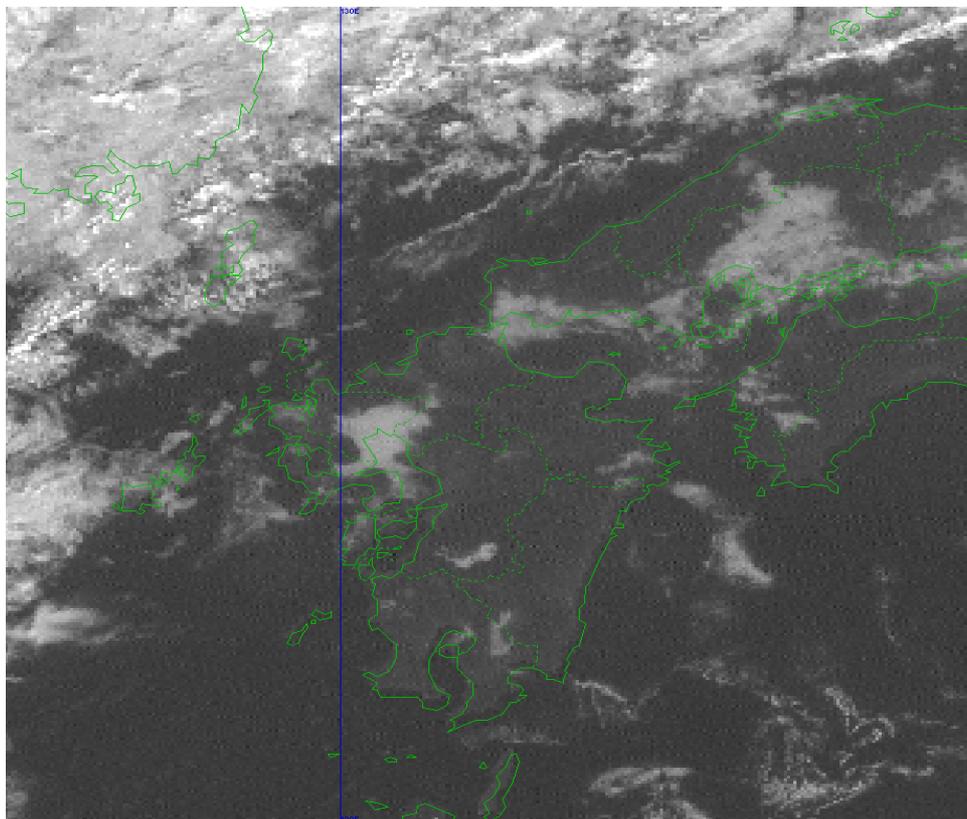


気象衛星画像

－今月のトピックス－



2003年11月8日10時の可視画像

西日本に発生した放射霧

霧は地表面付近に出来た雲で、水蒸気を含む空気が冷えたり、空気中の水蒸気が多くなりすぎたりするなどの気象条件が揃うと発生する。夜から朝にかけて、晴天で風が弱いとき放射冷却によって出来る霧を放射霧と呼んでいる。

立冬の8日朝、高気圧の勢力下にあった西日本は放射冷却現象により気温が低下し、所々で規模の大きい濃霧が発生した。霧は可視画像で灰～白色の雲域としてみられ、雲頂表面はなめらかで一様であることや、動きが比較的遅く形状の時間変化も緩やかであることなどから可視画像での霧の判定は比較的容易である。

写真は8日10時の可視画像である。佐賀県、関門海峡付近、広島県などに広がる明灰色をしたボール状の雲域は霧である。日本海に広がる前線帯の雲頂が凸凹した雲との違いがはっきり分かる。放射霧は気温の上昇とともに薄くなるのが一般的で、この日の朝、佐賀全県を覆いつくすほどの濃霧も昼頃にはほぼ解消した。

(気象衛星センター)